

『イギリスにおける労働者階級の状態』に学ぶ

第1回 関東ブロック

解説・背景・意義 そのI

はじめに

司会…今月号から全12回で『イギリスにおける労働者階級の状態』（岩波文庫、エンゲルス著）を学んでいきます。産業資本主義の勃興期における労働者階級の状態とその反抗をテキストに学びながら、現在日本の労働者階級はどのような状態に置かれているかレポートと討論から明らかにしていきます。

第1回は、この本の書かれた背景と意義について学びます。最初に、埼玉県協の矢島さんから提起をお願いします。

す。

矢島…『イギリスにおける労働者階級の状態』は、解説書に書かれているように、1844年11月から1845年3月中旬にかけて、エンゲルスの故郷ドイツ・バルメンで書かれたものです。読んでみて、労働者への労働強化による搾取、生活困窮、家族崩壊等々驚かされます。エンゲルスは、ドイツのまだ成熟していないプロレタリアの為に、事実の知識としてこの本を書きました。それは、社会的惨状の労働者階級の状態こそ、あらゆる社会運動の基盤でもあり出発点だからでした。

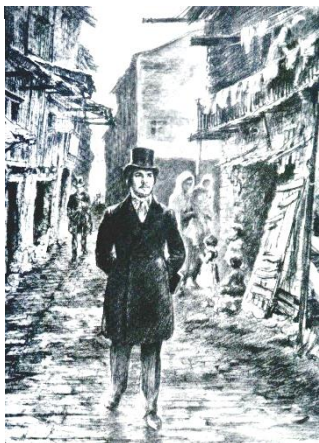
本書を学ぶ意義

科学的社会主義の基礎を築いたこと。5つの柱

矢島…この本から学び取れるものは、①資本主義的生産様式が歴史法則に従ってどのように成立するのか。②工業ブルジョアジーと工業プロレタリアーが如何にして成立してくるのか。③資本主義的社会秩序の本質が人間労働力の徹底した搾取にあることにより、労働者が悲惨な状態に置かれること。④しかし、彼らは資本家の搾取に無抵抗のまま身をゆだねることなくブルジ

## ◆みんなの学習講座

マンチェスターのスラム街を歩く  
F・エンゲルス



ヨアジーに対し、組織的な階級的抵抗を行っていること。⑤階級的な抵抗の中で変革主体として労働者が資本主義体制の打倒に向かっていくこと。

この5つをエンゲルスは本書で明らかにし、プロレタリアートの状態と役割を示すことによつて『科学的社会主義』の基礎を築いたことを学ばねばならないと思います。

マルクス主義の「三つの源泉」である、「ドイツの哲学」と「フランスの革命」と「イギリスの資本主義」がマルクス主義の思想を形成した柱といわれているように、本書が唯物史観に基づいて、書かれていることに着目していきましょう。

### 資本主義国イギリスの

#### 成立と発展・その背景

イギリスは1649年、オリバー・クロムウェルにより当時の国王チャールズ1世を処刑した「清教徒革命」により、一時的に王制から、共和国制になります。その後チャールズ2世になり君主制国家に戻ります。しかし、1688年ホイッグ党（ブルジョア議事中心派）とトーリー党（国王忠誠派）の紛争により新しい土地貴族と、金融ブルジョアとの妥協に基づくブルジョア的立憲君主制の形態をとりました。

これを「名譽革命」と言います。この二つの革命がイギリスにおける資本主義の下地になったと言えます。

その後18世紀後半産業革命がおこります。産業革命という言葉を初めて用いたのはエンゲルスでした。しかし、19世紀初めのイギリス人社会政策学者A・トインビーであるという説もあります。

産業革命の中心になったのが、根本的变化をもたらした1764年ジェニ―紡績機。1776年ワットの蒸気機関。1769年アークライトの水力紡績機・ミュール紡績機。1784年のカートライト動力織物機です。

### パクス・ブリタニカ時代・・・ 植民地獲得戦勝利での大英帝国

1756年～1763年にかけて戦われたフランスとの植民地獲得戦（7年戦争）に勝利したイギリスは、北ア

メリカの主要部分や東南アジアの植民地を手にいれます。それによつて、各植民地からは食物や、各材料、各原料が大量に入つてきます。

1764年当時のイギリスは、第二次の「囲い込み運動」で、貴族、大地主、大借地主がヨーマン（独立自営農民）や小作農民の土地を召し上げ、広大な羊を飼う牧草地を必要としたため、食料不足が生じ、そこに各植民地から安価な穀物が輸入されてきたのです。安い穀物が入ってきたのでは、大地主大借地農は儲からない。そこで彼らの利益を守るために、穀物輸入の一定の制限（これ以下では売つてはならない）をかけた「穀物法」を制定します。

うになりました。また産業革命に伴う都市への人口移動によつて生まれた都市の市民、労働者など広範な消費層も物価高になつたため穀物法に反対するようになり、その結果、1846年に穀物法は廃止されます。

**搾取するものと搾取されるもの**

司会：はい、ありがとうございます。矢島さんのレポートの冒頭、5つの柱が述べられました。皆さん理解できましたか。わかつた人は手あげてください。（誰も手を上げない）（笑）わかつてないですか？ それでは矢島さんから補足して貰います。

矢島：ここを読むと、生産手段の機械化がどんどん進んで、搾取する人と搾取される人が出てくるという話ですよ。突き詰めれば、生産手段（機械）の発展によつて生産力が爆発的に発展するわけですよ。

しかしそれだけじゃなくて、この生産力の発展は社会を変えていくんだな。中世の封建主義からなせ資本主義になつたのかを考えなければいけない。単に生産力を発展させるという事だけではなくて、資本家が儲けるためには、労働者がいなければならぬ。だつて資本家だけの国はないわけですよ。仕事をしていく、つまり労働力を売らなければ生きていけないという人がいないわけですよ。そういうふうに見ていくと、一面では生産力の発展と言われているけれども、読んでみてお分かりのように労働者が非常に悲惨な状態に置かれている。

つまり、そういう支配するものと支配されるものという、歴史的な発展があるんだというところを、見抜いていかなければいけないではないかという事なんですよ。だから、これは本にも書いてあつたけれども、エンゲルス

## ◆みんなの学習講座



イギリスの下層社会 絵：ウィリアム・ウオード

はいわゆるイギリスのブルジョアに対しては告発状を出すというんですよ。いかなれば雄叫びだな。そういう中で搾取するものと搾取されるものが出てくるということ、そしてその人たちは自らを解放するために抵抗闘争を始めるということ。言つて見れば唯物史観の象徴だなと思うわけです。ここには書かれていませんけれども、共産党宣言の原始共産主義以降の歴史は、階級

闘争の歴史であるというのがぴったりとあてはまるなというふうに思いました。

### 清教徒革命と名譽革命と産業革命

司会…はい、5つの柱①から⑤は今の補足で理解できたとして進めていきませぬ。

次はどうでしょう。清教徒革命と名譽革命はわかりますか。世界でブルジョア革命はイギリスが最初だと言われていますが、ここに2つ出てくるんですがこれはどういうことでしょうか？  
矢島…ここはちよつと難しいんですけど、やっぱりイギリスついでいうところは、前段に書かれているように他のヨーロッパの国々と違うんですよ。何が違うかというプロレタリアと資本家との直接的な闘いがないんですよ。したがって、2段階に革命があるんですよ。貴族あるいは王様のやり方がひ

どいではないかということで、国王を処刑して共和制になる。これが清教徒革命。

それから次の名譽革命は、ほぼブルジョアのいう通りに王様・貴族を抑えたというやり方なんです。そこのところが違っているんだね。

勝田…今、清教徒革命と名譽革命について言われましたが、産業革命にも同じ革命という名前がついていますけど、清教徒革命と名譽革命というのは上部の思想的革命で、産業革命というのは下部の経済的な発展、そういうふうな革命と捉えていいもんでしょうか。

司会…はい、勝田さんから質問が出ていますね。清教徒革命・名譽革命と産業革命はどう違うのか説明して下さいという質問ですね。

茂木…労働者の反発というか、そういう革命と産業革命というのは、間違っているかも知れませんが、機械化の発展というか、そういうところの

革命というふうには私は思います。

司会…はい機械の発展という事ですね。清教徒革命・名誉革命は台頭してきたブルジョアの抵抗、市民の抵抗ということであり、産業革命は機械の発展いふならば、生産手段の発展だというお話でしたけれども、いいところとらえてますね。

矢島…イギリスは世界の七つの海に乗り出したけれども、貿易を好き勝手に自由にやりたいというのがブルジョアのやり方なんです。それを認めさせるために、絶対王政から共和制になった。それが清教徒革命なんです。そういう形で資本主義の下地みたいなものを作った。

産業革命というのは、資本主義を確固たるものにするためには、生産手段の発展が大きな力になってくるわけですよ。資本主義の完成へ、未来へのものです。先程言ったようにその中に隠れているのは階級です。資本主義を發

展させるためには、労働者を作らなくてはいけない。労働者を作るために、困り込み運動とか、いろんな手を使ってやってきたわけですよ。

なぜ、イギリスに

ブルジョア革命がおこったか

三宅…産業革命について勝田さんが言ったことではぼ当たっていると思うんだよね。矢島さんの報告で、産業革命によつて生産様式が工場制になると言っている。だから、労働手段がどういふふうに変化したかという点、産業革命によつて、紡績機の発明、蒸気機関の発達があつた。だから労働手段がどう変わるかということが大きいと思うんです。転換期になつてゐるんですよ。

下部構造が上部構造を規定するといふけど、それは相互に連関しあつていて、主に下部構造が上部構造を規定するんだけど、産業革命によつて生

産様式が工場制になつていく。そして上部構造の国家の体制を上から、君主制から共和制に、そして名誉革命で立憲君主制になつて上部構造と下部構造が相互に影響しあうものだと思うよね。革命でいふと、産業革命は生産様式の一大変換、特に蒸気機関が発達したという事。

それとなぜイギリスでこれが起こったかという点、イギリスというのは炭鉱の国ですよ。石炭が大量にあつたという事と、羊毛がたくさん取れたということですよ。それが工業が発達する原動力だと思ひます。

日本でも茨城の常盤炭鉱とか三池とか原材料、特に労働対象がちゃんとあるところで工業が育つていくということがあつたと思う。だから、イギリスに産業革命が起こつたというのは、そういう要素があつたという事だ。

司会…はい。では、勝田さんの質問については、矢島さんが言ったように、

## ◆みんなの学習講座



産業革命により大工場で綿布を大量生産し、インドなど植民地へ輸出するようになった。

清教徒革命はブルジョア革命の下地作りなのです。名誉革命でブルジョア革命が完成する革命だという事です。

そして産業革命は今、三宅さんが言ったように、ブルジョア革命に応じて生産手段が発展していつて資本主義が確立していく段階のことを産業革命と

いう。こういう捉え方だそうです。

レポートにあるように、第一次産業革命というのが18世紀後半、そして第二次産業革命、第三次産業革命、第四次産業革命、そして第五次産業革命、これ初めて聞くんですけどね(笑)。ですから、ブルジョア革命は社会の発展段階の革命。第一次産業革命から第五次産業革命は生産手段が発展する段階を革命と呼んでいるという位置づけだと理解してもらえばいいと思います。

宮沢…なぜイギリスに最初にブルジョア革命がおこったのでしょうか。

司会…いい質問ですね。どなたか説明してください。

鈴木…14世紀以降、イギリスでは平民の地主層ジェントリ(地主貴族層)と、農奴から解放され農地を所有するようになったヨーマンが力を持ち始めます。独立自営農民や地主、産業資本家、商人などの市民階級が台頭し、政治的主張を行うようになっていきます

た。そして、国王に対して議会が一定の力を持ち、国王の絶対的な権力が制限されるようになりました。また、イングランド国教会とプロテスタントとの対立があり、宗教問題が政治問題になっていました。

こうして、新大陸発見から多くの植民地を持ったイギリスは、貿易が盛んになり経済的にブルジョア階級が力を持つていきました。そこから清教徒革命と名誉革命がおこりました。この二つの市民革命の1642年から1689年の期間をイギリスにおける世界最初のブルジョア革命と言われています。

司会…今月はここまでとします。冒頭本書を学ぶ意義として5つの柱を確認しました。このことは大事なのでよく頭に入れておいてください。

次回は、「解説・背景・意義そのⅡ」として、プロレタリアの反抗、階級とはなにか、労働組合の結成について学んでいきます。